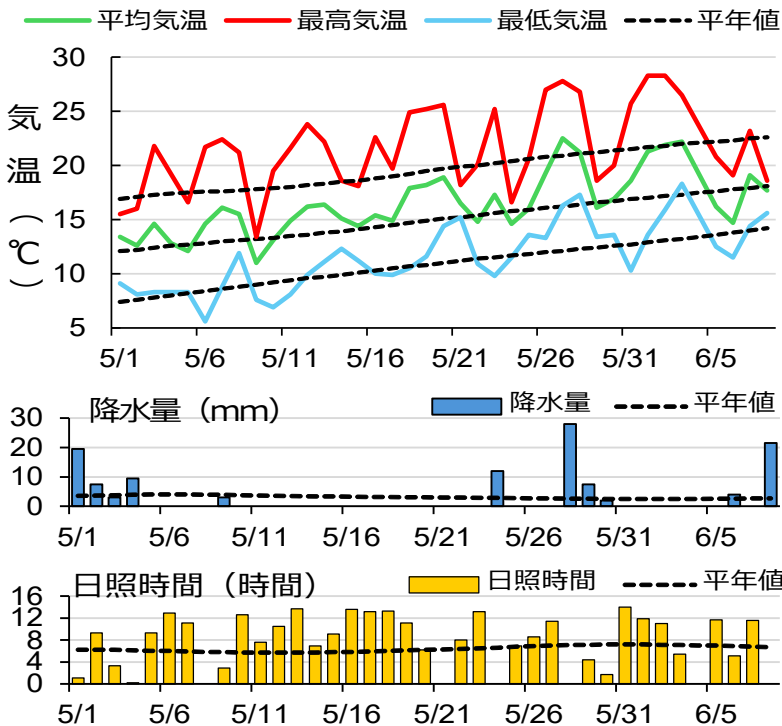


田植え後の高温で生育やや早め

～分けつを早期に確保し、適期の中干しを実施しましょう！～

1 気象経過と作業状況



【気象経過】

- 5月は高温傾向で推移し、降水量は少なく（平年比88%）、日照時間は多く（同比122%）になりました。一方で、一時的に最低気温が低くなった日や、風の強い日がみられました。
- 5月下旬以降は、曇天や降雨日が多くなっています。

【作業状況】

- 田植作業は、始期が5月13日（平年差1日早い）、盛期が5月20日（同差1日早い）、終期が5月28日（同差±0日）となりました。

2 生育状況

○ 6月10日現在の管内水稻定点調査ほ（あきたこまちR：9地点）の生育は、平年と比較して、草丈は長く、茎数は多く、葉数はやや多くなっています。

○ 定点調査結果（6月10日）

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(葉)
本年	27.3	152	6.6
平年	26.3	141	6.3
前年	23.6	103	5.8
平年比	104%	108%	+0.3葉
前年比	116%	147%	+0.8葉

※平年は過去10カ年の平均値

○ 田植え後は気温が高く推移したため活着が進み、さらに気温日較差が大きい日が多かったため、分けつの発生が促進され、多くのほ場で茎数が多くなっています。

○ その一方で、田植え後の強風による代枯れや、高温による土壌還元により生育が遅れているほ場が一部にみられます。また、多くのほ場で藻類、表層剥離の発生がみられています。

3 分けつの発生を促進する水管理と適期の中干し

茎数の確保状況は、ほ場によって差が多くみられます。目標収量の確保のため、分けつ発生を促す水管理を行い、早期の茎数確保に努めるようにしてください。

【異常還元（ワキ）対策】

- ほ場に足を踏み込んだ時に勢いよく気泡が発生し、下葉の黄化や赤褐色斑点が多く見られる場合は、落水や間断かん水を行い、根の健全化を図りましょう。
- 落水する場合は、除草剤やオリゼメート粒剤等の散布後日数に注意してください。

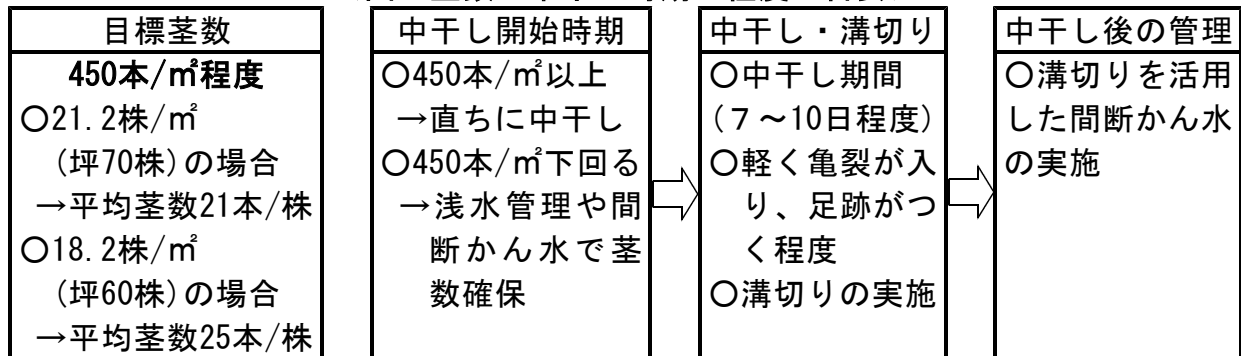
【分けつの発生を促進する水管理】

- 分けつの発生は昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。そのため、浅水管理を行い水温と地温を高めて日較差を大きくします。ただし、田面が露出しないように注意してください。
- かん水は水温の低い早朝に短時間で行い、日中は止水管理を行ってください。

【適期の中干し】

- 中干しは、無効分けつの発生を抑えるとともに、根の活力を高めて1穂粒数と干粒重を増加させる効果があります。下図を参考に、生育状況を見ながら中干しを開始してください。
- 目標茎数である450本/m²（下図参照）が確保できたら、中干しを開始するようにしてください。
- 落水やその後の入水をスムーズに行うため、溝きりを実施しましょう。

＜図：茎数と中干し時期・程度の目安＞



4 いもち病防除（オリゼメート粒剤の散布）

初期の発病を抑えることは、その後の葉いもちの発生や穂いもちの伝染源を減少させます。葉いもち防除として箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は、6月15日頃（6月12～18日）にオリゼメート粒剤を10a当たり2kg散布します。湛水状態で散布し、散布後4～5日間は入水せず、7日間は落水や掛け流しをしないでください。

補植用余り苗は、いもち病が発生しやすく周辺ほ場への強力な伝染源となります。
ほ場に放置されている苗が散見されますので直ちに泥に埋めて処分してください。

5 斑点米カメムシ類対策

- 本県の主要加害種であるアカスジカスミカメは、イネ科雑草、ホタルイ類等の穂に産卵するため、これらの雑草が畦畔や水田内で繁茂すると多発し、斑点米による被害が大きくなります。
- 今年は雑草の発生が早く、一部では残草しているほ場も見られます。初中期一発型除草剤で雑草を抑えきれなかったほ場は、発生草種やほ場の湛水状況に応じた中・後期剤の散布を行ってください。
- 斑点米カメムシ類の生息地を減らすために、農道や畦畔、休耕田、雑草地などの草刈りを出穂10～15日前までに数回実施します。

「ツキノワグマ出没に関する警報」が発令！！農作業中のクマ被害に十分な警戒を！
不明な点がある場合は、山本地域振興局農林部農業振興普及課（TEL52-1241）までご連絡ください。